

2011年9月からアメリカ合衆国のマサチューセッツ工科大学(MIT)の航空宇宙工学専攻(Department of Aeronautics & Astronautics)の博士課程に所属しています、方弘毅です。留学を考え始めて今に至るまでを、簡単にレポートしたいと思います。

夢

私が MIT で宇宙工学の研究をしたいと目指すようになった最初のきっかけは中学3年のときに家族でアメリカを訪れたときでした。父に連れて行ってもらったフロリダのケネディ宇宙センターで、私は実際にスペースシャトルが打ちあがってきた発射台を生れてはじめて目にしました。それはまだ小さかった私の夢をふくらますには十分な雄大さでした。また、私たちはボストンにも立ち寄り MIT のキャンパスにも訪れました。そのときに私は初めて MIT の存在を知り、そこでアポロ宇宙船の誘導コンピュータがつけられたことを知りました。将来そこで宇宙のことを学びたいと、そのころから漠然と思うようになりました。

出願、挫折

夢が現実の目標に変わりだしたのは、大学3年のときでした。そのとき、私は MIT の某教授の論文を偶然読む機会がありました。そこでは私のまさに日本の弱みだと思っていた複雑な宇宙システムに関する分野が研究されていました。(具体的には宇宙ロジスティクスという分野です。)やはり私は MIT に行きたい、その論文の教授の研究室に行きたいと、思うようになりました。

私はそのような目標を抱えたまま、私はたくさんの先輩がたから協力を得て、2年前に MIT の修士課程に挑戦しました。しかし、実力不足に加えて予想外に直撃したリーマンショックの影響による定員減などが重なり、補欠まで残ったものの、最終的には不合格の通知をいただきました。

そして、一時期は目をつむればボストンの景色が浮かぶほど夢に見た MIT は、あっさりと遠ざかって行きました。私は周りの大多数の同級生と同じように、日本の大学の修士課程に進学しました。そして自分の生まれた年の不運をぶつぶつ言いながら、でも「ベスト」を尽くしたのだから別の年に受けていたら受かっていたと根拠もなく盲信し、茫然と日々が過ぎて行きました。

そして再挑戦

転機は予想外に訪れました。私はある学会で MIT に留学しているある先輩に会う機会がありました。彼は非常に優秀な方で、MIT 物理専攻の Qualifying Exam (PhD 進級試験) をトップで通過し、研究業績もたくさん残している方でした。そのとき、彼が私にかけた言葉を今でも覚えています。

「MIT でトップになる気がないなら来ないほうがいい」

これは今まで誰にも言われたことのない言葉でした。今まで知らない間に自分の中で MIT に受かりさえすればいいという思いが浮かんでいました。しかし、私は MIT へ行ってやりたいことがあり、それは誰よりも「トップ」になってこなさないといけない、ということに気が付きました。そして、しばらく見えないふりをしてきた夢がまた視界の中に舞い戻ってきました。

私は最初に興味を持った論文の教授に連絡を取りました。幸運にもその教授と会うことができたときにはひたすら自分がなぜ MIT で研究したいか、自分がどのように MIT のプロジェクトに貢献できるか、をアピールしました。そのときに頂いたその教授の名刺は、常に財布の小銭入れに入れ、片時もあの論文を読んだときの初心を忘れないようにしました。

また、情報収集をするうちに、海外の留学には奨学金が非常に重要だということがわかりました。しかし、奨学金出願の時期に私はインターンのため日本にいない、ほとんどの奨学金の出願資格がありませんでした。しかしその中で、船井情報科学振興財団が非常に親切に対応していただき、非常に厚い待遇の奨学金を早い時期にいただくことができました。この結果は非常に留学のアドミッションに役に立ち、本当に心より感謝しております。

合格、入学

そのようなさまざまな方々の支えのもと、今年2月に無事に MIT を含む3校から合格通知が届き、9月から私は4年前から夢見ていたその教授の学生になりました。世界トップの門戸をこじ開け、ここから先の道明かりが見えました。

MIT が厳しい所以は入学にあるだけでなく、入学してからの脱落率の高さにもあります。しかし、脱落しなければいいという考えではなく、ほどほどにという考えではなく、ただただ「トップ」の業績をやり遂げて行かなければいけません。ここからの道は険しいですが、船井情報科学振興財団をはじめとして支えてくださっているさまざまな方々の期待に添えるように、今後も努力していきたいと思えます。

本当にありがとうございます。